

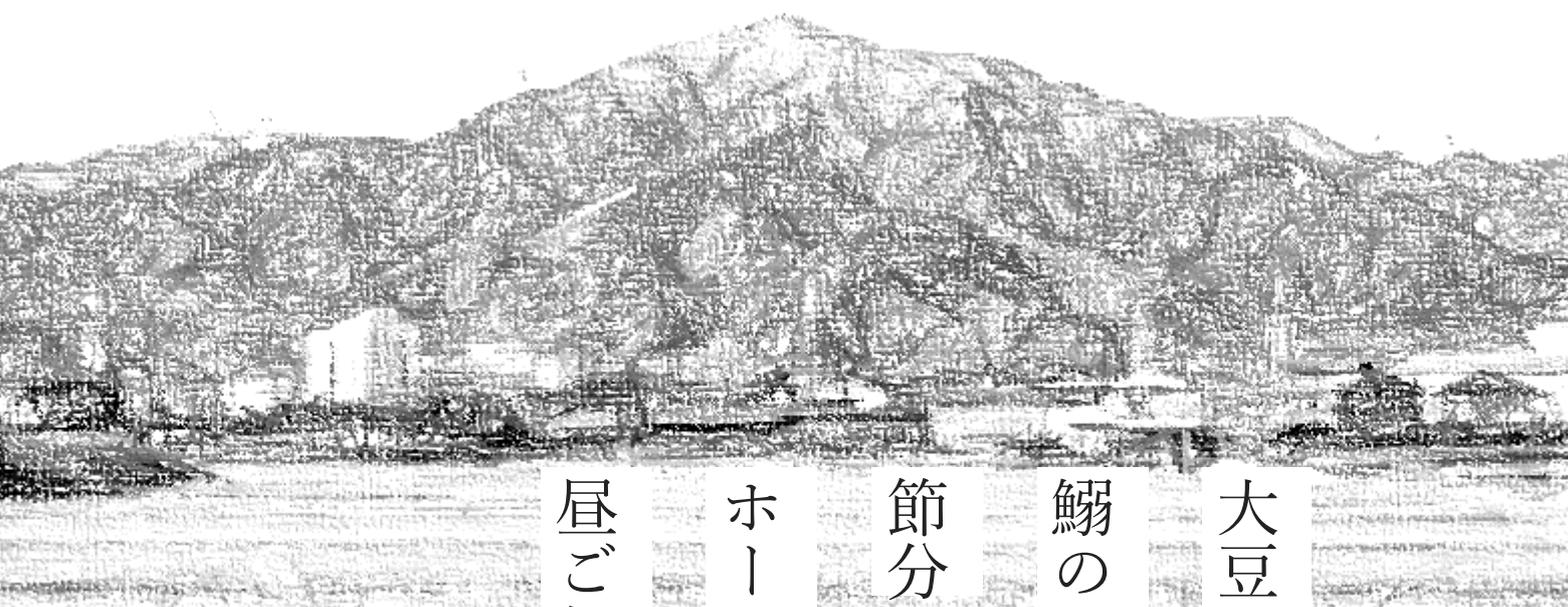
みどり通信

第41号
2025年2月1日

2025

2

令和7 如月



昼
ご
飯

ホ
ー
ム
の

節
分

鰯
の
つ
み
れ
汁

大
豆
の
五
目
煮

じんかれんの広場掲載

「節分」

秋野文子

2月3日は節分。

小寒、大寒と今は一番、寒い時期ほんとうに寒い。

スーパーなどでは恵方巻きの予約が始まっているそうだ。

私の子ども時代には恵方巻きの記憶はない。

豆まきは、お菓子が食べられるので楽しみだった。静岡では動物ビスケットが、この時期だけ売られていた。

近所の家にも回って行った。

息子達には豆と、お菓子は用意し豆を軽く外に撒き年の数だけ食べた。

節分を過ぎれば一息つけそうな感じはする。

「節分について」

秋野文子

「豆まきの動物ビスケット」

静岡県藤枝市にいる従姉妹から郵便が届いた。

カラフルな動物ビスケット。嬉しい！



豆まきには殻付きの落花生、大豆、動物ビスケット、キャラメル、ラムネ菓子などがあつた。

1日に5円の小づかいでは何日かかっても買えないほど集められた。それを何軒か回つたのだ。

同い年の従姉妹とは小学校、5年6年が同じクラスだつた。

長い間、疎遠だつたが昨年の年賀状から、電話で話すようになってゐる。

全然、変わってないよねと話合つてゐる。他人が聞いたらオカシイとは思ふが、何十年もが飛んでしまふ。

共通点は明治5年生まれの祖母せん。

「昭和 30 年頃の暮らし」

秋野文子

懐かしいだけではない。

小さな城下町の暮らしはコンパクトで分かり易い。

高校進学率は 50 パーセント、電気、水道は完備していたが石油コンロ、汲み取りトイレだった。

食べ物も、質素で栄養をとるのに精いっぱいだったと思う。

昔に戻るのではない。

あの頃を基準にして、より楽しく便利にして行ければと思う。



昭和 27 年の小学校の写真

「息子と話した掛川城のこと」

秋野文子

4時半に電話して、いつもの電話トークをした。
先日あった将棋の王将戦、掛川のことを話した。
夏休みや冬休みに行っていた、おじいちゃんの家は二の丸御殿に
近かったので時々、階段を上った。

掛川城二の丸御殿は安政の大地震(1854年)で壊れ再建したもの。
明治維新後は裁縫学校、消防、町役場、市役所に使われていた。
現存する二の丸は京都の二条城、高知城、川越城、掛川城。
私も小さい頃、階段を上り御殿前で、ほうそうの注射を打ったこと
がある。

祖母と役場に行きスリッパに履き代えて入ったこともある。
高校生の時、三の丸跡地に市役所の新庁舎ができた。

電話トークでは城郭の中の蓮池に行ったことや30年前に木造復元
された掛川城天守閣を見学したことを話し合った。

二の丸御殿も建物として保存されていたのではない。町役場として
使われていたので残っていたんじゃないかなあ、と言うことにな
った。

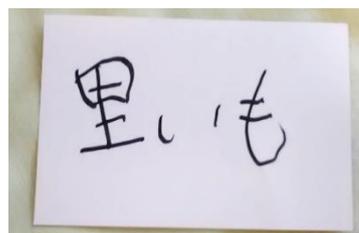
「sagamix」

秋野文子

相模原市南区、小田急線相模大野。相模原の南の玄関。
北口を出ると目の前、左手にポーノ。
相模原市のアンテナショップ、サガミックスがある。
私は自宅にいた時はよく利用していた。

新鮮な野菜、玉子、丹沢あんぱん、地元の食材を使った薬膳弁当などがある。

津久井の組み紐を色とりどり買ったこともあった。今は分からない。
一見の価値ありと思う。



「春の小川^{♪♪}」

秋野文子

ホームの誕生会の用意が始まった。3月の初めとなれば、さほど時間もない。

忙しい仕事の合間に少しずつしてくれている。

こんな大変なキツイ仕事をやってくれていると、つくづく思う。
夜勤は5時から翌日の9時半まで、夜は1人で20人を介護する。

春の小川、ふるさと、蛍の光、歌詞カードができた。

蛍の光の曲はスーパーの閉店間際、半額セールに流していると話題にもなった。

春になってマスク無しで、春の小川を歌いたい。

「食事」

ふぁ爺

テレビがつけっぱなしの食事処はそれだけで三流だ。客の感覚を視覚と聴覚に逸らし、味覚をごまかしている。そんな店は客の方も腹がくちくなればいいという連中が集まってくるからそれはそれでいい。そんな連中はテレビをサービスと受け取るだろう。だが実は店主が退屈な仕事をまぎらわすためにテレビをつけているのだ。

サービスで BGM を流している店もある。だが音はやはり味覚の妨げになる。

食事付きの観劇がある。それは弁当のほうがおまけということなのだろう。

むかしのヨーロッパの王侯貴族は食事の時、楽団に演奏させていたそう。ディベルティメントで楽しさを盛り上げ会食したのだろう。

対照的なのが寺の食事だ。食事中一切口はきかない。だが本当に美味しかった。

では精神科おすすめの家族団欒の食事とは？

朗読と音楽を楽しむつどい

■時 2月9日(日)14時～15時30分
■会 相模女子大学グリーンホール
多目的ホール
■対 小学生以上
■定 240人(先着順)
※希望者は直接会場へ

朗読

『羅生門』『蜘蛛の糸』など

音楽

『リベルタンゴ』『動物の謝肉祭』など
マリンバ演奏(ピアノ伴奏あり)



■相模大野図書館 ☎042-749-2244

らくがき板

書き初めに
和と書いたけど
解るかな

人は皆

十月十日を

胎内で

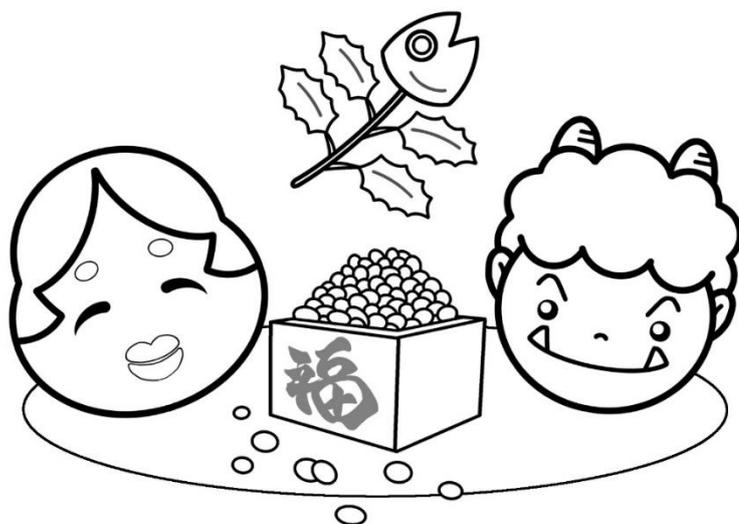
戦後八十年

昭和百年

私は八十一才

鯛雲





福は内、鬼は外
家族が噛みしめたい言葉だ

どうして親は子どもに謝らないのだろうかねえ。

ある講演会で講師が
「講演聞いただけじゃ意味ないですよ。」
と言っていた。

らくがき板



大沼神社の椿

編集後記

故郷の梅の便りに和む我

寒い寒いと言っているも梅の蕾。

施設の庭に一本、河津桜の木がある。しっかり蕾が膨らんでいる。節分には咲きそろうだ。

コロナ、インフルエンザに罹る施設の職員、高齢の友人、友人の若い家族、あらゆる年齢層に感染者が出ている。

できる時に、できることをやるしかない。

その気になると案外できるものだと思ったりしている！

秋野

midori2shin@gmail.com

